

参考情報 と 作成システム

企画書作成にあたり下記の電子情報を参考にさせていただきました。作成はCADシステムです。

1. 日本の神話 古事記 <http://www15.plala.or.jp/>
2. 大阪府魅力づくり推進課 <http://www.mozu-furuichi.jp/>
3. 藤井寺市観光ボランティアの会 <http://www.fujiidera-kanko.info/>
4. 電子百科辞典 ウィキペディア
5. その他の電子情報 各種システム

2019年7月6日 世界文化遺産登録 百舌鳥・古市古墳群

古墳とは

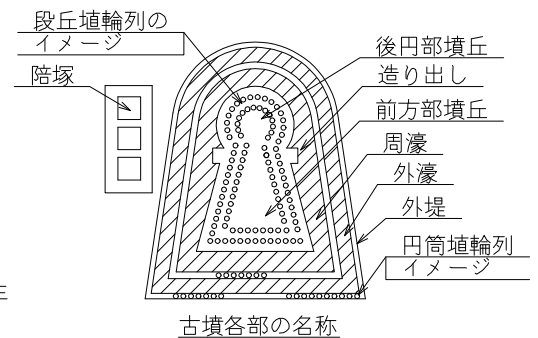
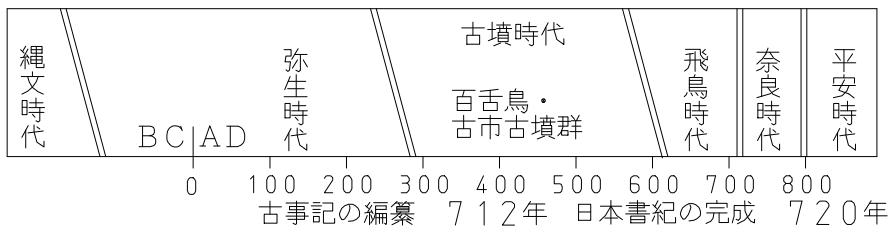
日本列島では3世紀後半から7世紀までの400年間、土を盛上げた墳丘を持つ墳墓が盛んに造られました。この時代に造られた墳丘を持つ墓を古墳といい、本州から九州にかけ約20万個あります。古墳は当時に階級の高い人により造られ、周りの堀に水を溜めて濠になっている古墳も多数あります。古墳の斜面に石が敷き詰められ、崩れの防止や埴輪を並べて装飾目的で利用されました。墳丘が2段・3段のものや、濠が2重・3重になっているものがあります。上から見たとき「前方後円墳」、「円墳」、四角形の「方墳」があります。大きさも10mから400m以上の巨大な物までさまざまです。

大型の前方後円墳には墳丘や堤の上などに埴輪が立てられています。墳丘の内部に埋葬施設があり副葬品が添えられ、被葬者の生前の財力権力などを推測できます。古墳はお墓目的だけでなく社会的な記念物で、こうした古墳が造営された時代を古墳時代といいます。

埴輪とは

粘土で焼いた土製品でもっとも数が多いのは円筒埴輪です。円筒埴輪の種類や埋葬施設の構造、副葬品の特徴などで、おおよその建造時期が明らかになります。

日本の古代史年表



歴史的背景

弥生時代に水田稲作農耕がはじまり、人々の暮らしは「猟銃・採集経済」から定着した生産経済に変化します。そうした生活の変化により、各地で水田を中心とする村落が成立し、それらが次第に統合され「クニ」と呼ばれるような、政治的集団を生み出していきました。

弥生時代中期には、こうした政治集団の首長たちによって墳墓が造られるようになり、弥生時代の後期2世紀後半に、各地で特色がある墳丘墓が造営されるようになります。そうした各地の墳丘を基にして地域を越えて画一的な「古墳」が造営されるようになったのが「古墳時代」です。

古墳時代前期・中期の大型古墳は、墳丘の形態や埋葬施設の構造、および副葬品の組み合わせなどが極めて画一的で、近畿中心に西は九州から東は関東・東北南部に及ぶ広範囲で同じ特徴が見られます。このことから古墳の出現は、広域の首長連合の成立を反映しているものといわれています。

古墳の種類

古墳には様々な形があります。百舌鳥・古市古墳群の特徴として、大型の前方後円墳が集中して造成されていることや、大小さまざまな形をした古墳があります。

①前方後円墳・円(円墳)と四角(方墳)を連結したような形で鍵穴の形をしています。

代表的なものには日本最大の仁徳天皇陵古墳があります。巨大な古墳のほとんどは前方後円墳で、時代を通して造られたが、日本独特の形状で、なぜこんな形状になったかはわかっていません。

②帆立貝形古墳・全方後円墳の一種で、前方部を短くした古墳です。主に古墳時代中期造成。

③円墳・日本の古墳では一番多い形状

④方墳・四角型の古墳。古墳時代を通して造成。後期の6世紀以降は大王の墓も方墳です。

世界三大墳墓 比較

	仁徳天皇陵古墳	クフ王のピラミッド	秦の始皇帝陵
全長	墳丘のみ 約486m (濠を含む最大長840m ・最大幅654m・外濠一周 約2.75km)	約230m	約350m
高さ	約35.8m	約146m	約76m
堆積	約140万m ³	約260万m ³	約300万m ³